

滑川ファミリースポーツクラブ 設立のポイント

平成20年4月21日

滑川ファミリースポーツクラブ

はじめに

7年前、この私達の地域に「総合型地域スポーツクラブ」が紹介され、多くの紆余曲折を経ながらクラブを設立、運営して来ました。地域住民のみなさんのお力添えがあったればこそと感謝の念に絶えません。厚くお礼申し上げます。

設立して早や2年が経った現在も「総合型地域スポーツクラブって何なんだろう」という思いで自問自答に駆られる呪縛から解き離れられそうもありません。しかし、この頃になってやっとクラブが持つべき本質を理解出来てきて、クラブの運営していく方向性を探り始めているのが現状です。

クラブを運営していく上で最も重要なことは、「会員は勿論のこと、地域住民みんなでクラブづくりをする。」ことではないかと気が付き始めた訳です。確かに、今迄も「地域住民みなさんを巻き込んだ参加型クラブづくりを」と事あるごとに言い続けてきましたが、はたして是を満足する具体的施策をどれほど追求してきたかと問いかねられるとNOと言わざるを得ないのであります。

設立し運営の目指すべきものは総合型地域スポーツクラブの「あるべき姿」すなわち「地域住民みなさんの参加型クラブづくり」が理想の形態で、その観点に立った諸施策推進を図らねばと強く認識しています。

今回、この様な形で「滑川ファミリースポーツクラブ誕生のポイント」を纏めた訳ですが私達のクラブが今一度原点に立ち戻りクラブの理想像を追求していく上で役立たせたいと願っているものであり、又、日立市内でこれから設立しようとする地域の方々に少しなりともお役に立てば大変幸せなことと認めてのこととあります。

今後とも、みなさんのより一層のご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

平成20年3月

滑川ファミリースポーツクラブ
(総合型地域スポーツクラブ)
マネージャー 土 田 宏

目 次

はじめに	1
目次	2
クラブ設立までの経過取り纏め	3
設立のポイント	4
1. 設立までの全体経過	5
2. 情報収集・導入検討勉強会期	
(1) 役員さんの不満がクラブ設立の原動力！？	7
(2) 地域内に熱意ある人材が存在していた好運	7
(3) ドイツスポーツシューレ視察報告会参加者のカルチャーショック.....	8
3. プレ事業立ち上げ期	
(1) 行政サイド支援策「設立モデル地区」に名乗りあげ	9
(2) 素人軍団の事業運営実験	9
(3) プレ事業活動ノウハウ吸収	9
(4) クラブ運営の頑ななこだわり	10
(5) クラブの人気メニュー「企業チームとの連携」.....	11
4. 委託事業運営期	
(1) 事業拡大は活動場所・指導者の確保が鍵	13
(2) 連携可能なクラブ位置づけと拠点（事務所）の確保	14
(3) 広報紙発刊・ホームページ開設による情報の共有化	16
5. 自主運営化期	
(1) 地域内みんなの参加型クラブづくりをめざして	17
(2) 諸団体との連携体制見直し検討	17
(3) 新事業の立案・展開	18
参考資料等	19
(1) クラブ像ディスカッション取りまとめ図（方針・コンセプト）.....	20
(2) 滑川ファミリースポーツクラブ事業体系表	21
(3) 活動成果取りまとめ表	22
(4) 広報紙抜粋記事（クラブ方針・指導のポイント）	23～27
クラブ役員	28
最終章	29

滑川ファミリースポーツクラブ設立経過

		1999 平11年	2000 平成12年	2001 平成13年	2002 平成14年	2003 平成15年	2004 平成16年	2005 平成17年	2006 平成18年
行政支援体制 国：文科省 (財)日本体育協会 県：茨城県教育庁 保健体育課 (財)茨城県体育協会 市：日立市教育委員会 ｽﾎｰﾂ振興課 (財)日立市体育協会			★ 11月：文科省「ｽﾎｰﾂ振興基本計画」策定・公布	★ 4月：スポーツ振興投票制度スタート	★ 4月：スポーツ振興事業スタート	★ 4月～：toto, 市助成金事業	★ 6月～：平成16年度育成指定ｸﾗﾌﾞ委託事業	★ 4月～：平成17年度育成指定ｸﾗﾌﾞ委託事業	★ 市「ｽﾎｰﾂ基本計画」策定 4月～助成金支給
活動内容	方針		11月～ 情報収集	12月～ 導入検討勉強会	1月～ プレ事業活動立ち上げ	6月～ 委託事業(プレ事業拡大・定着化)	4月～ 自主運営化		
	検討委員会 設立準備 委員会	★ ～平11迄滑川地区体育祭 ★ 平11/10月：清水 独スポーツシュレ視察	★ 11月：第1回滑川地区ファミスポ (雨天中止) 反省会：総合型地域スポーツ クラブ導入検討確認	★ 11月：総合型スポクラブ紹介 ★ 12月：検討委員会設置(20名) ★ 2月：先進地視察(福島県双葉町)	★ 11月：モデル地区名乗りあげ ★ 2月：設立準備委員会活動スタート(1回/月開催) ★ 4～7月：地域住民へのPR活動(各種集会時7回実施, ★平17/2井上先生講演会, ★平18/2清水先生講演会) ★ 7～8月：自主ｸﾞﾙｰﾌﾞとの意見交換会(32Gr/7回) ★ 10月：中学校部活支援・指導者派遣立ち上げ ★ 10月：第4回ファミスポ「スポーツ屋台村」初運営	★ 1月：中高年健康体操(現かがやき健康教室)立ち上げ ★ 5月：親子体操教室(ほっぷくらぶ・すてっぷくらぶ)立ち上げ ★ 2月：広報紙「笑顔」発刊 ★ 4月：HP開設	★ 1月：複合スポーツ教室立ち上げ ★ 3月：事務所開設,事務ｽﾀｯﾌ配置 ★ 4/23 設立総会 ★ 4月：テニス教室立ち上げ		
	研修会 講習会				★ 11月第4回スポーツ クラブセミナー ★ 2月：SSFスポーツセミナー2003 ★ 3月：日立市準備委員研修会(柳沢先生) ★ 6～8月：市主催 健康づくり推進研修会 ★ 6月：第9回スポ少指導者全国研究大会 ★ 平15/8,平16/2月(前後期計7泊9日): 文科省主催 平15年度ｸﾗﾌﾞﾏﾈｰｼﾞﾅｰ養成講習会参加 ★ 10月：県スポ少指導者研修会 ★ 11月：県スポ指導者研修会	★ 11月第5回スポーツ クラブセミナー ★ 6～12月(通信講座・ｽﾎｰﾂﾘｯｸ2回計3泊5日): ｼﾞｭﾆｱｽﾎｰﾂ指導者養成講習会(2名) ★ 7月1泊2日：学研主催 保育実技講習会(2名) ★ 11～12月：県主催 ｸﾗﾌﾞﾏﾈｰｼﾞﾅｰ養成研修会参加 ★ 11～12月：県主催 ｸﾗﾌﾞﾏﾈｰｼﾞﾅｰ養成 研修会参加			

設立のポイント

- 1 全体経過
- 2 第1期 情報収集・導入検討勉強会期
- 3 第2期 プレ事業立ち上げ期
- 4 第3期 委託事業運営期
- 5 第4期 クラブ自主運営化期

総合型地域スポーツクラブを滑川地区に設立してはという動きが始まったのは、まさに21世紀がスタートする記念すべき2000年（平成12年）の11月であった。以来、2006年（平成18年）4月に滑川ファミリースポーツクラブの設立に至る迄、実に5年4ヶ月を費やした。設立後、現在（平成20年3月）迄丁度2年間経過した。この通算7年4ヶ月経過した現在、会員数はクラブ役員等も含めて400余名で、11教室の活動に参加している。

ここまで来れたのは、何と言っても設立迄の5年4ヶ月に亘る議論の積み重ねがあり、特色ある滑川ファミリースポーツクラブが誕生したものであると確信している。ちなみに会議の実施回数（他団体が主催開催され出席したものも含む）は、平成15年度で37回、16年度で81回、17年度で48回開催出席している。年間開催出席回数の最も多い16年度でみると、土、日曜日を除いた3日に1回程度、設立準備委員の数名から24名の方が議論を尽くしていたことになる。まして、この設立準備委員24名の内20名は勤めており、当然会議は夜にならざるを得ない状況であった。

会議内容を振り返ってみると、例えば「総合型地域スポーツクラブに相応しい事業はどんな種目をどれだけ実施すればいいのか。」「既存の自主グループ活動との違いは」「総合型地域スポーツクラブを実施するメリットは」といったようなテーマを何回も何回も堂々巡りで議論を繰り返し、拳句の果ては一旦中断して別テーマを検討しようといった按配になる始末の時もあった。

それでも、プレ事業を立ち上げ（平成15年度）、委託事業を実施し始め1年目（平成16年度）、2年目（平成17年度）9月頃迄の設立を半年後に控えた頃迄は気楽に構えていた。しかし、流石にあと設立迄半年になった時点においては、設立に自信を失いかけていたのも事実である。この様な時、設立準備委員の総意として「できることから、一つ一つやっていけばそれで十分じゃないか。設立後、経験を踏まえて徐々に出来ることを増やしていく。最初から全てを満足する準備なんて無理だ」と言う事になった。この総意、ある意味開き直りともとれるが、それからは設立に向けての課題の具体化に拍車がかかったのである。まさに大変なパワーを費やし設立に漕ぎ着けた。

検討開始から今日迄、設立準備委員の方は業務の関係で2、3名入れ替わってはいるが一貫して同じメンバーで推進して来ている。滑川ファミリースポーツクラブ誕生の秘策は、この人的資源の存在が全てであると言える。

設立迄の5年4ヶ月の経過を別表「滑川ファミリースポーツクラブ設立経過」として取り纏めた。行政サイドの支援体制をベースとして滑川ファミリースポーツクラブが検討実施して来た事項を時系列的に並べて見ると、設立経過が手に取る様に振り返って見ることが出来る。そして、その事項を次の区分4つに大括りし、その区分毎に設立に大きな影響を及ぼした事項を区分毎に3～4ポイントとして取り纏めた。

このポイントは、クラブを設立しようとした動機そのものであり、クラブの特徴でもある。

第1期（平成12/11月～平成14/10月）情報収集・導入検討勉強会期

第2期（平成14/11月～平成16/ 5月）プレ事業立ち上げ期

第3期（平成16/ 6月～平成18/ 3月）委託事業運営期

第4期（平成18/ 4月～平成20/ 3月）クラブ自主運営化期

今回、第1報として設立迄のポイントとして纏め、引き続き平成20年度中に第2報として、具体的詳細資料も含め取り纏める計画である。

(1) 役員さんの不満がクラブ設立の原動力！？

彼此、30年程前からいわゆる町民運動会が各種工夫を凝らして盛大に実施されてきた。昭和50年代半ばから平成11年まで「滑川地区体育祭」と称し、平成12年からは「滑川ファミリースポーツフェスティバル（愛称：滑川ファミスポ）」に、昨年の平成19年より「滑川ファミリーまつり」と名を改めながら地区の一大イベントとして地区内住民の1,500名程度が集い明るいまちづくりを目指し継続、実施している。

この名称の変遷時に、種目や運営方法の大きな見直しを行い、衣替えがなされてきた。「体育祭」時は集団対抗形式で行われていたため、各集団の役員さんの選手の選出、集めに大変な労苦を強いていたのである。この労苦が不満となり体育祭そのものが重荷となり役員になることも出来れば避けて通る雰囲気さえ生まれていたのである。

そんな折、平成12年に集団対抗種目を大幅に削減しレクリエーション的なゲームも取り入れ名も改め「第1回滑川ファミスポ」開催の運びとなった。しかし、残念なことに当日雨天中止となってしまったのである。

結果的にこの雨天が総合型地域スポーツクラブを導入しようというキッカケになったのだから今思えば大きな転機であり、好運となった。

中止決定がなされ、折角第1回ファミスポ開催に向け準備を進めて来たことであり更なる飛躍を求めて反省会が持たれた。

その席上での話題は「もっと気楽に参加し楽しめるイベントとするには。」に集中したのである。現在のクラブ会長である永山さんから「国で策定されたスポーツ基本計画の総合型地域スポーツクラブ構想は地域住民みんなの手で自主的に運営するものでありをこの滑川に導入しては」との提案があり、検討していくことを申し合わせ散会した。

実は申し合わせた導入検討の第1回目は1年後になってしまったが、それはさておき、役員さんの不満が起爆剤となり、天は雨となり味方になり反省会が行え、総合型地域スポーツクラブが土俵に呼び出されたのは実にタイムリーであった。

(2) 地域内に熱意ある人材が存在していた好運

滑川まちづくり市民の会（現在 滑川学区コミュニティ推進会）の企画委員、滑川体育振興会事務局長を担当し日立市体育指導委員でもあるクラブの現会長永山さんは、仕事柄（市会議員）行政の施策をいち早くキャッチされており、この滑川地区に「総合型地域スポーツクラブ」を導入すべく行動を起こされていた。更には平成12年の滑川地区体育祭が雨天中止になった1年前の平成11/11月に「ドイツのスポーツシューレ視察」をされていた地区内在住の清水さん（現クラブコーディネータ）ともコンタクトを図っていたのである。

雨天中止となった反省会時に、「総合型地域スポーツクラブの導入検討」の話を持ちだされた。「みんなが気楽に参加し、楽しめるまちづくり施策」を推進していく上でうって付けのタイムリーな提案であった。それにしても、子ども達の体力低下が叫ばれ、高齢化社会に突入していく様々な諸問題をスポーツを介して健康で明るいまちづくりを目指すこの構想は、まさに、そのお手本をドイツのスポーツシューレに学び取り、地域に根付かせ

ようとされていた人材がいた事に驚きを感じるのである。そしてそのような人材が、この滑川地区内に存在していた事は非常なる好運であり、それ以降の活動展開にどれ程スムーズな展開に結びついたかを考えると図り知れないものがある。

(3) ドイツスポーツシューレ視察報告会参加者のカルチャーショック

「総合型地域スポーツクラブ」導入検討申し合わせをして、あっという間に何もせず1年が経過してしまった。申し合わせ1年後の平成13/11月に「ドイツのスポーツシューレ視察報告」を主体とした総合型地域スポーツクラブの紹介の場が持たれた。

参加者はまちづくり市民の会、体育振興会の自主グループ等のメンバーが60名程度集まり聞き入ったのである。

スポーツの必要性、有効性を具体的に説き、競技スポーツ振興のみではなく、「スポーツ、フォー、オール（すべての人にスポーツの機会を）」の方針に基づく具体的方法を、地域、企業、行政が連携を図り、スポーツを通じて健康で豊かなまちづくりを徹底して行っていることに、物凄いカルチャーショックを参加者の少なからずの方が受けたのではなかろうか。

このショックが総合型地域スポーツクラブ推進のエネルギーになったと確信されるのである。後日、参加者のメンバーの中で、まちづくり市民の会事務局が主体となり、一本吊りにて20名の導入検討委員会が設置され、いよいよ本格的に検討開始のエナジーがかかったのである。

(1) 行政サイド支援策「総合型地域スポーツクラブ設立モデル地区」に名乗りあげ

平成13/11月に勢い込んで本格的活動にすべく検討委員会を立ち上げ活動を開始したものの、平成14年のほぼ1年間は、先進地視察や勉強会を数回催したにとどまっていた。エナジーはかかった筈であったが意気込みは空回りし具体的な進展は見られなかった。

そんな折、平成14/11月に行政サイド（日立市スポーツ振興課）より「総合型地域スポーツクラブ設立のモデル地区として名乗り上げては」という支援があり、検討委員会立ち上げ後のこの1年間、是といった成果もない状態にも拘らず、何の躊躇もなく名乗りあげたのである。この時、名乗り上げた滑川と塙山の2地域が日立市内での設立、運営を始めた第1,2番目のクラブとなった。

この時の行政サイドの支援は、本来地域の自主的な活動に徹すべき観点から逆行している様に思われる。しかし、もし支援を受けていなければ設立の運びに至らなかったのではとの思いも強い。それだけに、非常にタイムリーかつ適切な支援であった。

(2) 素人軍団の事業運営実験

設立モデル地区として名乗りを上げた翌平成15/2月には、20名で構成された検討委員会メンバーの一部見直し、追加を行い設立準備委員24名で設立準備活動を展開始めたのである。

このメンバー24名は、2～3名の出入りがあったものの現在もクラブの役員として活躍している。このメンバー全員が、各自の仕事とは全く関係なく、ましてや行政サイドの市のスポーツ振興課や体協の方は1名もいない。コーディネータの清水さんを除いて全員が素人であり、業務の一貫として担当している方もいない。素人軍団が各専門部を担い、事務局を担当し相互に助け合いながら今日迄進めて来た。このメンバーの集まりがあったからこそ、そして何のしがらみもない軍団だからこそ今日までやってこれたのではと考える。くどいようであるが、仕事として指示されたからやっているのではなく、各自の意思で各自に任されているからこそ続けられるのであろう。

この設立準備活動は、名乗りをあげたことにより40万円の助成金が支給され、正直言ってこれが足かせになり地域の特色を生かしたクラブ像を大いにディスカッションし、総合型地域スポーツクラブの本質的運営方法の研修を重ね、地域住民へのPR、自主グループとの意見交換、プレ事業活動立ち上げへと加速して行ったのである。まさに、本番に向けた各種課題の掘り起こし、解決する実験の場としてのプレ事業であった。

(3) プレ事業活動ノウハウ吸収

平成15/6～8月に亘って日立市健康づくり推進研修会が4回開催されクラブから3名が参加した。この研修において体得したノウハウは、その後のプレ事業展開に役立つ有意義なものであった。

プレ事業の対象をどの年代層に絞り、どんな種目、カリキュラムにすべきか、又、その

指導者はどうして探すか、使用用具類の準備、果ては指導者の謝金は、といった具合の懸案事項の解決が実にスムーズに進み、プレ事業第1弾「中高年健康体操教室」開設の運びとなったのである。

研修内容そのものに加え、この研修を担当されていた方との出会いが生まれ、貴重な人脈となり今ではクラブのメンバーとして加わって頂いている。

(4) クラブ運営の頑ななこだわり

平成15/8月、平成16/2月の前後期2回にわたった7泊9日の文科省主催「クラブマネージャー養成講習会」に参加した。

この講習会で得られた知識、体験は、クラブの設立準備活動、設立後のクラブ運営に多大な影響を及ぼしたといえる。

総合型地域スポーツクラブ運営の重要な方針は、次の5つである事を明言し、徹底して具体化に反映してきたのである。

- ① 理念の共有化
- ② 地域住民による自主運営
- ③ 受益者負担の原則
- ④ 地域住民のニーズにマッチした多様な事業の展開
- ⑤ 一流指導者による活動の継続化

これら5つの方針を満足するクラブ設立、運営を図るべく、常に中心に据え、事に当たってきた。

一つ一つの詳細な説明は、平成20年度中にクラブの設立経過の具体的資料も織り込み、その後の運営も滑川ファミリースポーツクラブの特色ある点を主体に集大成を図る計画である。ここでは、「受益者負担」の原則についてのこだわりについてのみ述べておきたい。

文科省主催の総合型地域スポーツクラブマネージャー養成講習会時に、まず叩き込まれたのは、「自主運営」「受益者負担」の二つの運営の柱であった。これは、従来の多くのサービスが「行政サイドのお膳立てされたものに参加者は無料で乗っかっていればいい」というパターンからの脱却を意味していると理解したのである。総合型地域スポーツクラブでは、「やりたい事は、自分達で考え、自分達の力で実施、運営する。」いわば、「自分の健康は、自分で買え」ということに尽きると理解したのである。これを実践しない限り総合型地域スポーツクラブを設立、運営しているとは言えたものではない、と言い続けて来た訳である。

それを頑なに押し通してクラブを設立、運営している訳であるが、現実はそのそんなに簡単にいくものではない。今までやって来たやり方は、それはそれで大きな成果を生みだして来たのであると否定はしないが、時代が変わり、ドイツのスポーツシュレーに学び徐々に改革していくべきスタート台にあると考えるのが自然な姿であると思われる。

現実にある程度の妥協は致し方ないとするものの、進め方の基本としては、あくまでもこの二つを頑ななこだわりとして持ち続け設立に至っている。

尚一層のこだわりで将来に向かっての理念実現へと一步一步前進するクラブで在りたいとの願いから、敢えてそうさせて来たといっても過言ではない。

(5) クラブの人気メニュー「企業チームとの連携」

事業計画検討の過程において、中学校部活に参加の生徒さんの「もっと、上手になりたい。」との声を耳にした。学校側にお願いして生徒さんにアンケートをとって貰ったところ、専門的な知識、技術の習得欲求がかなり強い事が浮きぼりになった。

これに應えるべくクラブでは、わが街の地の利を生かした「一流選手（OB）とのふれあい」をテーマにして次のような（財団法人 日本体育協会等に寄稿したもの）部活支援を実施して来た。

(5.1) 地域特性

滑川ファミリースポーツクラブは、茨城県日立市滑川地区を拠点として、3年間のプレ事業期間を経て、平成18年4月に誕生した。クラブは、プレ事業期間中から日立市教育委員会や日立市体育協会、地域の小・中学校などと連携を図りながら様々な取り組みを行ってきたが、地元の企業チームとの連携は、地域特性を踏まえたクラブの大きな特色である。

日立市は、製造業を基幹産業とする企業城下町であるが、市内に立地する大企業が持つ、野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、マラソン、卓球など、全国レベルにあるチームが地域スポーツの振興にも大きな役割を果たしてきた。

昨今、全国的に企業スポーツが衰退しつつある中で、この身近にある貴重な「資源」を活用し、クラブや企業チームのみならず、多くの人々がメリットを得ることができるよう、平成15年に「中学校部活動支援」などの取組を開始した。

(5.2) 部活動支援の背景

クラブが部活動支援に取り組むことになった契機は、中学校の部活動顧問の多くがスポーツの指導に関し専門的な知識が不足していたこと、そして元日本代表の井上謙氏が監督を務めていたバレーボールVリーグチームの日立国分トルメンタが平成14年に廃部になったことである。当時、クラブの組織化を考えていたスタッフは、「まちのスポーツを支えてきた企業スポーツの存続は、地域スポーツの発展、振興に不可欠」とであると強く認識し、クラブと部活動、企業チームとの連携のあり方を模索した。そして中学校の求めに応じて、クラブが企業チームの選手や指導者を部活動に派遣する部活動支援を開始したのである。



(5.3) 部活動支援の概要

部活動支援は、部活動の指導に苦慮している顧問から指導者派遣要請を受け、クラブが市内又は近隣で活動する企業チームにアプローチし、指導者派遣をコーディネートするものである。

部活動支援のポイントは、①生徒はスポーツの楽しさを体感するとともに発達特性などに応じた正しい指導を受ける。そして企業チームのサポーターとなりホームゲームの応援に行く。②顧問は、企業チームの指導者から指導方法を学ぶ。③企業チームは、地域密着型の活動を通じてファン獲得を図る。④クラブは、指導時に謝金を支払い計画的で責任ある指導を求める。また生徒の保護者や地域に対しクラブの取組や企業チームをPRするとともに企業チームの応援団になる、というものである。

これまで日立国分トルメンタOB（バレーボール）、水戸ホーリーホック（サッカー）日立電線ブルドックス（バスケットボール）、日立化成卓球部の選手、指導者の皆さんに協力をいただいていたが、さらに部活動支援以外においても、講演会時の講師招聘やテニスコート使用、スキー教室開催時のホテル・送迎バスの使用などにおいて企業や企業チームには協力をいただいている。

なお、協力をお願いした企業や企業チームは、いずれも地域貢献の必要性を強く認識していたことから、活動はスムーズに進めることができたのである。



(5.4) 課題

運動部に所属する中学生はクラブ会員ではないため会費を徴収していない。このことは、クラブの方針である「受益者負担の原則」に反することである。さらに部活動支援の基盤を強固なものにし、安定した支援を続けていくために、「学校の負担」のあり方については早急に解決しなければならない課題である。

また、人事異動により新たに着任した校長や顧問によって、活動に対する理解度に差があることから、今後はPTAや部活動の保護者後援会を含め、より一層中学校との連携を強化する必要があると考えている。（執筆者 コーディネーター・清水 透）

(1) 事業拡大は活動場所・指導者の確保が鍵

クラブに於ける事業拡大は、総合型地域スポーツクラブの狙いを全うすること、又クラブが将来に亘って健全な運営を維持していくためには必要不可欠であると考えている。拡大といっても、ただやみくもにメニュー増やしていけばいいというものではない。場所と指導者の確保の問題が付いて廻り、この解決を避けて通ることはできない。

そこでまず、「地域の他団体事業との共存、連携体制を保持したクラブ事業展開方針と体系の明確化」を図り、次に「総合型地域スポーツクラブの既実施、新規実施事業に関らず、継続的活動化への施策」を常に考慮しながら定着化を推進して来ている。

最初に「クラブ事業展開方針と体系の明確化」であるが、設立準備活動を始めた頃（平成15/4～8月）は、スポーツ少年団や自主グループが、総合型地域スポーツクラブと一体となりクラブを発足させればこと足りる、との非常に楽観的な考えで事に当たっていた。そして、場所の確保についても総合型地域スポーツクラブが開催する事業については「優先的に使用、確保出来るだろう、否であれば行政サイドでそのような手立てとなる支援をやってもらえるに違いない。」と言う様な、これ又甘い考えで対応しようとしていた。

平成15/7～8月にかけて「自主グループとの意見交換会」はこのような考えで議論を重ねたが、結果的には二つ共、設立準備委員会が描いていた構想は断念せざるを得なかった。今思えばこれで良かったと思っている。総合型地域スポーツクラブの理念がスポーツを通して体感していく会員が増えるに連れ実現していくものと期待しているからである。そのような舵取りすることが総合型地域スポーツクラブの狙いであろう。そういう意味で他団体が一挙に総合型地域スポーツクラブに参加しないことを心配はしていない。むしろ場所の確保は大変な問題である。

クラブとしては、他団体との連携、協力し合う立場をとりながら、話し合い調整することや地域周辺の企業とのギブ&テイクの関係を模索しつつ、場所の提供を快く受けてもらっている。今後、より一層中学校部活の企業OB指導者支援を深め、一方クラブとして企業が地域に何を求めているかを探り、具体化しながら地域づくりを目指したい。

行政サイドにも強い働きかけをして行きたく考えている。先日2/23に行われた日本体育協会主催の「総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラム」に於いて、新町スポーツクラブの小出さんがこんなことを発言されていた。「・・・行政側の立場の人に、私はクラブマネージャーとしてお願いがあるとすれば、お金は出さなくていい。最初に場所の調整をして欲しい。地域の特技を持っている人と橋渡しをして欲しい」（茨城新聞掲載記事より）特技を持っている云々部分は、本文でこれから述べる指導者のことであり、双方とも全く同感である。個人的には、行政サイドの関係者と同じ事を何回か話し合い、お願いしたことを記憶している。行政側の支援を特にお願いしたい分野である。

次に「継続的活動化への施策」は、しっかりとした指導者による指導体制が取れるかどうかにかかっていると考え、一流の指導者を探すことを心掛けている。しかも、指導者には、指導の対価として報酬を支払い、その分は会員の方に教室参加会費として支払って頂く方法、いわゆる受益者負担としている。

受益者負担の考えについては、前述しているのでここでは省略するが、指導料を有料とすることで指導者側も参加者側も真剣勝負となるわけで、教える側はしっかりとした指導を心掛け、それなりに事前に勉強もやらねばならぬし、場合によってはトレーニングも

必要となるであろう。又 受ける側もお金を払っているのだから一生懸命になり、休むのももったいない気持ちになる。手を抜いた指導と思えば文句もいいくなり、それが高ければ指導者のせいばかりではないが、クラブの運営方法等にも嫌気がさし退会する方が増えていき、やがて教室運営ができなくなる。教室が立ち上がり、活気溢れる活動が継続しているのは、クラブ経営が健全である証である。そのキーマンが指導者であるから熱意あるしっかりとした指導者を探し出すのは大切なことである。このような指導者を、今迄 以上の方法で発掘していかなければならない。現在のところ、指導者に恵まれているものの、発足3年目の今年当りからマンネリ現象が起きてこないか、と心配な面もあり注意して見守っていかねばと心している。

- ① 体協による紹介依頼
- ② 企業で活躍していた一流プレーヤーOBとの直接依頼
- ③ クラブ役員の一flowプレーヤーOBの紹介

(2) 連携可能なクラブの位置づけと拠点（事務所）の確保

クラブを円滑に運営する為には、既存組織と協力し合いながら連携が取れる位置づけにあることは、極めて重要である。極論すると、今日までまちづくりの中心的存在である滑川学区コミュニティ推進会との連携なしでは、クラブを運営することは不可能である。

まちづくりのために行われて来たあらゆる実績は、滑川学区コミュニティ推進会を核として行われており、この実績は大変なもので、今後もまちづくりの主要施策として継続され続けねばならぬ。

この様な状況の中で、総合型地域スポーツクラブ構想が打ち出されたのであるが、運営方針、考え方は滑川学区コミュニティ推進会も総合型地域スポーツクラブ双方とも「地域住民による自主運営」を柱としている点は変わらないが、運営する財源はどこに求めるかが全く違っている。前者が「行政サイドの支援（市の委託事業）」であるのに対し後者は「受益者負担」であるから、考えようによっては水と油になると言っても可笑しくない。あるイベントを計画し実行する場合、片や「参加料無料」であり、片や「有料徴収」となる訳であるから、参加を希望する方にとっては、単純に考えた場合無料に越したことはない。このギャップをどう説明し、クラブの存在に理解を求めていくかが、クラブ設立の最大の課題となる。

幸いにして、クラブ設立の準備、検討を始めた段階において、その検討、設立準備委員は滑川学区コミュニティ推進会の活動メンバーが主体となり総合型スポーツクラブ導入の産声があがり、その後数名の仲間も加えクラブ設立を進めて来たことである。つまり、検討を始めた時より、滑川学区コミュニティ推進会の了解、認知されていたのである。当初から滑川学区コミュニティ推進会の体制の中で協力が保障されていたのも同然であった。

そんな環境の下で、設立に至るまで何のしがらみも意識せず、全くフリーな状態で総合型地域スポーツクラブのまさにテキストを地で行く議論を重ね設立にいたったのが、滑川ファミリースポーツクラブである。これがもし、滑川学区コミュニティ推進会の協力なくしてクラブの今日があったらどうかと考えた時、設立は無理であったらと思うのである。

この小さな地域において多くのしがらみの中で、総合型地域スポーツクラブに全く個人的に数名の方で動き出していたとすれば、それは大変な労苦を必要とするだろうし、ましてや施設面の利用等も考えると設立出来得るか大いに疑問である。

そういう意味で地域の中で、地域のみなさんに見守ってもらえる、またこれからの事を思えば地域のみなさんに参加して育てていってもらえるクラブでありたいと願っている。クラブの位置づけは、受益者負担による運営をあくまでも固執した上でそれが叶うようなものとし、滑川学区のあらゆる諸問題の検討、調整機関である「滑川交流センター運営委員会」の傘に入り協力、連携を図り合えるものとしている。

各種検討会議の会議室、活動場所となる施設利用の確保、用具類の保管場所、施設利用に伴う電気、ガス等の諸経費等々、どれだけ便宜をはかってもらい、協力を得てきたか、計り知れない。今になってみれば、その当時は場所の提供等当然のことと思い利用していたが、大変な協力を得たらばこそ今日があるんだと感謝に絶えない。極めつけは、クラブの拠点としての事務所の配置である。設立まで1ヶ月を切った時点において、滑川学区コミュニティ推進会との数度の折衝を重ねたが折り合いがつかなかったことである。市からの委託事業である交流センターとして自主運営化を目指していたコミュニティ活動とクラブ設立が全く同時期に重なり、コミュニティ活動の諸問題、特に事務室等の場所のレイアウト変更案の中にクラブの事務室確保は、大変な困難を呈したのであった。そこで提案されたのが、市民体育館利用者受付業務を出来る限り補助することを条件に市の体育館受付室を借用し、クラブの事務室が誕生した。

当初、クラブ側で提案した場所は、図書室を一部間仕切りして利用する案であったが、交流センター化に伴う変更でボツになってしまった。クラブとしては検討を始めたキッカケはコミュニティ側の働き掛けであった経緯があり、クラブ設立に付随する各種課題は全面的に協力が得られるものと踏んでいた帰来があったのも事実であり、それは甘い考えであったと反省している。

クラブとコミュニティ活動が一体となり活動していく体制を選択すれば、何の問題もなくすんなりと解決したものと思われる。しかし、クラブは「受益者負担」の方針を貫くことに徹する方針であり、行政サイドの前面支援で運営されるコミュニティ活動と根本的なズレが発生する恐れは十分に予測され、これもクラブ事務所がすんなりと決まらない要因であった。

何はともあれ、クラブは既存体制から独立した位置づけを選択した。とはいってもコミュニティ活動とは緊密な連携体制をとり、協力しながら将来を見据えて推進していく位置づけとなっている。

そして最後に付け加えておきたい。実は事務所が決定したことにより設立に向け大きなハズミが生じ、設立の準備事項がトントんと進んでいくのだから不思議なことである。それはきっと情報が集中してあらゆる動きが活発化するのであろうか。それ程、事務所は重要なものであると今になって思う。

(3) 広報紙発刊・ホームページ開設による情報の共有化

地域住民のみなさんに、総合型地域スポーツクラブとはどんなものかを、知って頂く事なくしてクラブ発足は在り得ない。総合型地域スポーツクラブが、地域の自主的な力で自分達のやりたい事を自分達で企画、立案し運営していくものであるから当然の事ではある。地域の方に広く理解し、協力を願うとともに出来得るならばクラブ運営に参加して貰える様になるのが、理想的なクラブ像である。

このクラブ像の実現を図るべく、クラブの狙い、クラブが運営している教室の様子、イベントの実施内容等を、広報紙を発刊し地域住民の全世帯（約4,000戸）に配布して浸透を図って来ている。又、ホームページも開設しクラブへの参加を呼び掛けている。

現在、会員として登録し、教室等への参加者は400名を越えているのは、総合型地域スポーツクラブを理解された上での参加であろうと都合よく解釈したいが、そうとばかりとは言えないだろう。ただ、教室の開催案内を見て参加された方も多いのではなかろうか。

何れにしても、400名の会員を擁している事は、それなりに総合型地域スポーツクラブとして形を成していると自負している。更に一歩進んだ、一般会員の方や会員以外の地域住民の方のクラブ運営に携わるようなクラブづくりの観点に立つと、現状に於いて、そこまでは全くその気運すら感じられないのが実情であり、今後の課題として受け止めみんなのクラブづくりを目指した事業を検討、立案し展開する計画情報のクラブと地域住民みなさんとの媒体として、広報紙、ホームページの充実化を図っていく。

(1) 地域内みんなの参加型クラブづくりをめざして

設立準備活動を開始した平成15年当初より、出来るだけ多くの方に参加して頂ける様各種事業を立案、計画して来た。（添付参考資料「年代別事業体系」参照）各年代層別に、その年代に相応しい事業を立案すると共に、年代の枠を超えた多世代の方が一緒に活動出来る事業も総合型地域スポーツクラブの方針からして事業化することも考慮しながら推進して来ている。ただ、多世代の方が出来る種目は現在の所、親子体操教室の3教室のみであるが、設立時に於いては余り無理せず出来る事業から開始し、徐々に増やしていくというクラブの申し合わせに沿い事業化してきたもので、今後の新事業展開に多世代参加型教室を事業化していく計画である。尤も、設立前の当時としては、多世代参加型の種目を検討、立案している余裕、時間がなかったのが本音であり、何はともあれ立ち上げる事を最優先に考えた結果である。

この時期になって、平成20年度事業計画でニュースポーツを数種目取り入れた「親子複合スポーツ教室」立ち上げを計画している。

このような事業計画は、教室参加者の意見、イベント開催時のアンケート、他団体の方との意見交換等を参考にしながら事業部会が中心になり事業化して来ている。この事業化検討の中で、クラブ関係者以外の方による「やってみたいことを、クラブの仲間となり事業化してみませんか」という、いわば「クラブ デビュー」の呼びかけを広報紙で行ったことがあるが具体化していない。

地域内みなさんによる各種事業化を具体化する仕掛けづくりを今後、更に検討し実現してみたいと考えている。

平成20年度の新事業として、既に実施している「スポンジテニス教室」や「硬式ボールテニス教室」で、お母さん方もやってみたいとか、子どもさんの技術習得に連れてステップアップするコースが欲しいとの意見、又 イベントとして開催した「クッキング教室」を継続してやっていけるコースが欲しい、や 教室に通う子どもさんの送り迎え、活動を見守っているのなら私達も一緒にやってみたい等々の意見、要望を反映した事業化を計画中である。

地域住民みなさんの参加型クラブづくりのほんの小さな芽生えであるものの、この様な小さな一つ一つを大事にし、クラブの理想像実現を目指したい。

(2) 諸団体との連携体制見直し検討

スポーツに関係する地域内諸団体は、滑川学区コミュニティ推進会の健康部、地区社会福祉協議会、地区体育振興会、自主グループ（地区体育振興会に属し約50グループ）、スポーツ少年団、中学校部活動、それに滑川ファミリースポーツクラブ等がある。これ等の団体（中学校の部活動は除く）は、地域の施設を利用している訳であるが、滑川学区交流センターが事務局となり互いに調整し合って、十分満足とはいかないが活動を行っている。

この状態における課題は、各団体が実施している事業内容が、実施している内容そのものの、参加対象者が近似していること、又 各団体で中核として携わっている方が複数の団体に跨っており、同じ様な催しを立場が違っただけで同じ方が運営しているケースが多々あ

ることである。

全ての団体による全ての事業は、みんな自分の健康の事を考えスポーツを楽しんでいる訳で、目的はみんな共通しているのである。それじゃ、総合型地域スポーツクラブと他の団体との違いは何であろうか。いろんな研修会や講習会等で議論、質問をしてきたがその立場によって違うのであるから??となる。スポーツ少年団の全国研修大会にも参加した。テーマが、「スポーツ少年団活動を主体とした総合型地域スポーツクラブ活動の展開」であったから中味を知りたくてである。各種団体が、挙って「総合型云々・・・」と罷り通っていた感じがする。設立開始した当初は、研修で学んで本質的な総合型地域スポーツクラブとは少なからず隔たりを感じたものであるが、今はどのような活動であれ目的が同じであり、それはそれで立派な活動であると思っている。4(1)項で少し述べたが、地区内における自主グループ活動も、クラブとして一緒に活動しようというスタンスで意見交換会を持ったが、総合型地域スポーツクラブに入ってどんなメリットがあるかという点に集中した。色々説明はするものの自主グループの方にとっては仲間内のみのことであるから中々理解できないのは当然であるというのも頷ける。総合型地域スポーツクラブは、地域全体が仲間になり、クラブ内みんながコミュニケーションをとり合い地域を活性化させていく場である。言い方を変えれば「地域全体を考え地域のみんなが主役になり、自分は地域のために何が出来るかを考えクラブに参加して、運営に携わる。そして、何かを得ると同時に何かを地域クラブのために行うこと」ではなかろうか。このような観点に立ち、将来を見据えた他団体活動との位置づけの見直しが必要であろうと考えている。既存グループが沢山ある地域において、総合型地域スポーツクラブを設立する難しさを痛感してきたが、結論は同じ考えを持っている方が少人数でも、あれこれ考えずにまずはやってみることに決断しスタートしたのである。

(3) 新事業の立案・展開

5(1)項で前述した如く、クラブ運営は「みんなの参加型クラブづくり」をベースとしていつでも、誰でも、ぶらっと行って手軽に参加し、汗をながし遊んでいられる、楽しんでも来れる様な新事業を平成20年度中に新たに立ち上げたく検討したい。

具体的に現在検討したい事業は

- ① 大人を対象とした初心者テニス教室
(全く初めての方と少し経験ある方を対象とした2教室)
- ② ニュースポーツを主体とした親子複合スポーツ
- ③ ウォーキング教室
- ④ クッキング教室

であるが、いずれも身体を動かすことによりスポーツをする楽しさを感じとって貰える様な事業展開にしたい。特にクッキング教室は、スポーツとは異質な感じに受け止められるが、スポーツとは本来楽しむ事全てと広義に解釈し、クラブの事業構成もカルチャー部門も含めておりクッキング作りを楽しんでもらえれば、十分に目的に合致しているものである。更に、何をするにしても健康づくりに欠かせないものは、食物のとり方、いわゆる「食育」が重要な課題でクッキング作りを通して「食育」について勉強するものである。

添付参考資料等

- ① クラブ像ディスカッション取りまとめ図（方針・特徴・コンセプト）
- ② 滑川ファミリースポーツクラブ事業体系表
- ③ 活動成果取りまとめ表
- ④ 広報紙抜粋記事（クラブ方針・指導のポイント）
- ⑤ 滑川ファミリースポーツクラブホームページ
(<http://www.namekawaclub.jp>)
- ⑥ ドイツ スポーツシューレ視察報告書 （ホームページにて公開）
- ⑦ 滑川ファミリースポーツクラブ紹介パワーポイント
(ホームページにて公開)
- ⑧ 滑川ファミリースポーツクラブ紹介ビデオ （クラブ事務所保管）
- ⑨ 日立市における生涯スポーツ社会の実現（中間報告書）
(日立市総合型地域スポーツクラブ検討委員会編)

クラブの方針・対象種目

魅力的なスポーツイベント	ボランティア実践クラブ	スクール間の情報交換、 交流大会の開催	ニューススポーツ
帰属(仲間)意識の醸成 マイ・クラブ	ちびっこクラブ (サークル)	活動の発表の場を作る (ゲームも含む)	ニューススポーツ (サークル)
親睦と社交を最優先にした サークル活動とスクールの 2本立て	おじいちゃん、おばあちゃん の智慧 ※ 昔の遊び方	健康優良地区のモデル として	独自のニューススポーツ の確立
サークルには ①いろいろなスポーツを楽しむ ②文化サークル ③ボランティアサークル	子供を地域で育てる お年寄りが昔遊びを教える。 または、囲碁、将棋など..	定期健康診断	ダンベル
多世代間の交流 ペーゴマ、たけ馬、そば打ち、 編物、たこづくり etc.	中高年健康ふれあいクラブ	歩きながらゴミ拾い	グランドゴルフの実施
目的、レベルに合った メニューの選択が可能	初心者向けのスポーツ教室	緑の芝生の自主管理	イベントとして ・ボウリング大会 ・スキー教室 ・ハイキング
自分の体力、時間に合わせ、 種目を選べる。 複数種目を経験できる	選手育成を目指すスポー ツスクール	花づくり (春夏秋冬)	社交ダンスをバンド楽 団等により実施
複数種目に参加できる メニューの準備	日常的なスポーツを楽しむ サークル	芝の上でのバダシの運動	硬式テニス
同じ種目で世代ごとにチーム を結成する、多世代を対象 としたクラブ	スポーツに役立つリズム感 や柔軟性を養う遊び	旅行(ハイキング)等の 仲間づくりに役立つ	水 泳 (水あそび)
同一種目でレベルを合わせ たサークルを作る。	家族が同じ時空間を共有 できる (親子体操等豊富なメニュー)	ウォーキング (ハイキング)	卓 球 (頭の体操)
年齢層に合ったスポーツの 開発		中高年の軽登山 !! (サークル)	少年野球 !!
		クラブのイベントは、時代の ブームを反映させる ①低山ハイキング ②エアロビクス	
		エアロビクス (サークル)	

理 念

地域の健康水準の改善 (医療費の軽減)
健康の維持・増進 (クラブ・ドクターによる健康管理)
仲間作り (縦割りの友達)
既存クラブのメリット 他サークルとの交流、情報交換

施 設

学校の施設利用
公園作り
市民広場の整備 芝を植える (野球マウンドはなし)
みんなで作る芝生のある グランド
アフタースポーツにおける 交流＝クラブハウス
多世代間の交流 スポーツ施設には必ず休憩室 を設ける (文化の成長)
シャワーの設置をする
託児所の充実
バンド演奏会 (体育館)(スタジオ)

支 援・運 営

設立前に体験学習など 出来ないか	手軽にスポーツ施設利用
スタッフ全員が気軽にアイディア を持ち寄れるような雰囲気ある クラブ	施設の有効利用
閉鎖的な会費制クラブ'では なく地域に開かれた開放系 クラブ'	地域の体育館などの施設 管理はスポーツクラブ'が行う (有効活用)
計画的な活動 (施設・時間・メンバー固定化)	学校施設の防犯対策 (夜間ウォーキング等、地域 住民の出入りが多くなる)
煩雑な事務の簡素化 (施設確保、保険加入、 メンバー募集他)	イベント セミプロ・プロなどの 有名人を招きスポーツ講習 (多世代の交流)
スクールの支援 (費用・指導者・イベント・ 支援会)	スポーツボランティア募集
施設の確保	インパクトのある広報誌作り の呼びかけ
	スポーツ備品の斡旋を行う

指 導 者

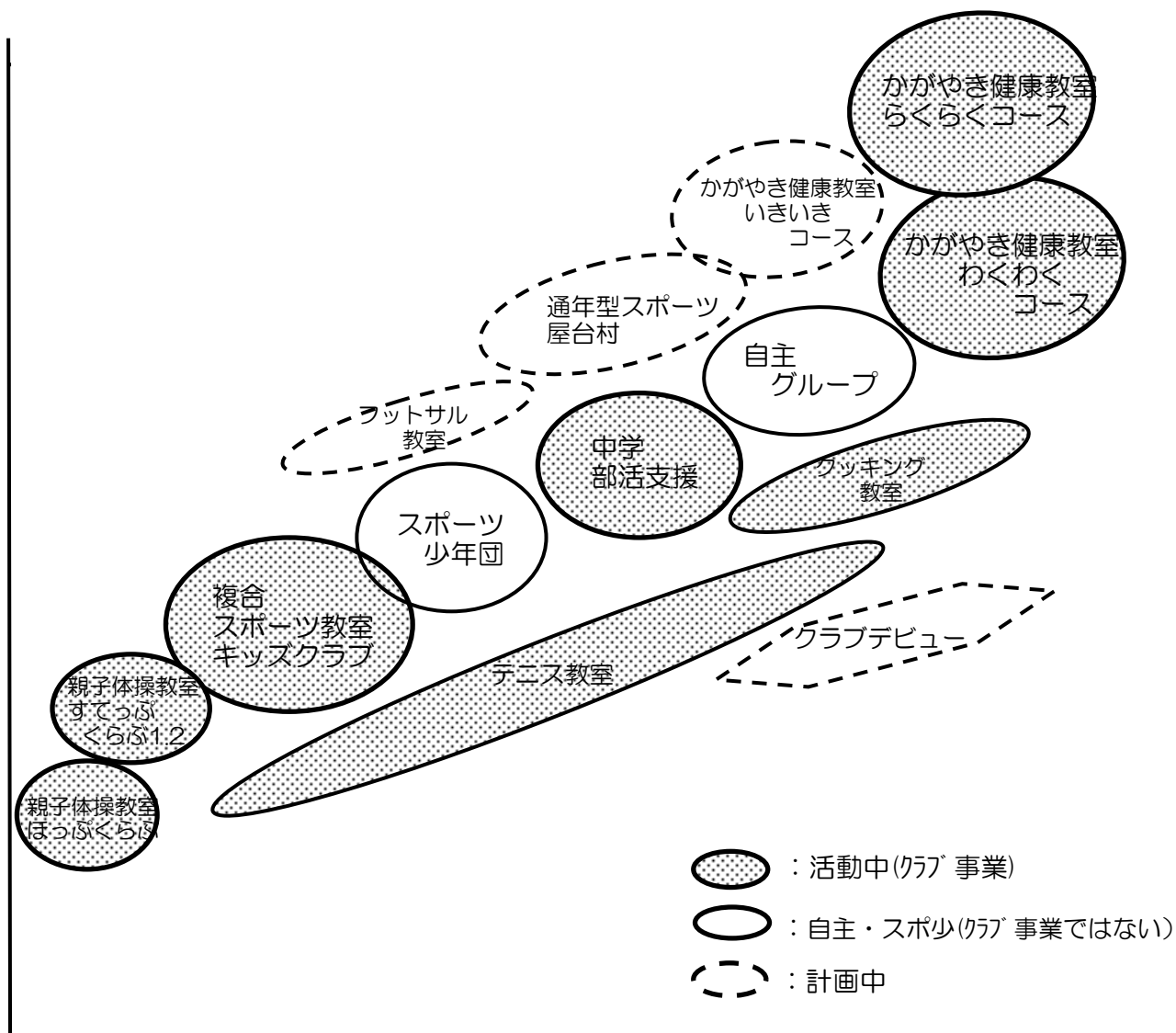
身近に上級者の指導が受 けられる
適切な指導者(クラブライセ ンス)に指導してもらえる
良い指導者に指導を受け られる (多様な技術レベル)

会 費

参加費は会員割引を 活用する
既存のクラブのメリット スポーツ保険を統括する ことにより掛け金が低減 できる

滑川ファミリースポーツクラブ活動状況

年代層別事業体系



6才	8才	12才	15才	44才	64才	
幼児 3,4才 5,6才	小学生 低学年	小学生 中・高学年	中学生	一般	中年	高年
8.0%	5.0%	4.2%	36.1%	27.3%	17.0%	

2.4%

19.6%

滑川小学校区全住民 11,134人(平17.1.1現在)

活動の成果：皆さんに喜ばれて勇気づけられています！

かがやき健康教室（わくわくコース、楽らくコース） 毎週金曜日

★ 3ヶ月間活動の成果をチェックしてみました

[平成16年1月～3月まで、計11回・20人(46歳～67歳が参加しました。)]

開始前 現在

腹筋力 18.6回(100)・21.3回(114)

柔軟性 11.1cm(100)・13.8cm(124)



★ そして、コーヒー&ケーキでミーティング

- ① 3ヶ月良く続いた、いい汗かいた。
- ② 1回だけと思って参加したのに全部参加できて不思議！
- ③ 歩くのも辛い腰痛だったのに調子よくなったわ。
- ④ 運動は大の苦手！友達に誘われてよかったわ。
- ⑤ 金曜日は何があっても他の用事はキャンセル。クラブ最優先で参加しました。
- ⑥ 公民館に来るのは始めて、皆と一緒に活動するのがこんなにたのしいとは！
- ⑦ 姿勢が悪く気にしていたが、良くなってきて嬉しい。
- ⑧ 近くでできることが一番です。

★ 生徒さんにインタビュー

- Q この健康体操クラブに通われてご自分の中で一番変わった！と思われることはどんな事ですか？
- ① 何もしなかった時と比べ、毎日が楽しく過ごせるようになった。
(黒一点の男性の方)
 - ② 上手・下手関係なしに仲間としてやれることの喜びを得た。
 - ③ 1月から始めて体重が3kg痩せ、太ももが3cm細くなり体脂肪も減り体が軽くなった。
 - ④ ストレス解消でき、そしてストレスが溜まらなくなった。
 - ⑤ レッソンの内容が充実していてとてもよい。
 - ⑥ お二人の先生方がとても明るい方なので、和やかな時間を過ごすことができる。
 - ⑦ 前回登れなかった山に今回登れた。
 - ⑧ 引き続き開催して欲しい。

☆☆ 先生からのコメント ☆☆

- ① 皆さん反応が早く、とにかく真面目です。きちんと家で復習をしてくる優秀な方々ばかりなんです。
- ② 毎回ではないですが、体脂肪を計測しながらレッスンをしますが皆さん確実に体脂肪が減っています。
- ③ いろいろな会場で教えていますが、ここ滑川の皆さんが一番熱心でよい生徒さん達です。



親子体操教室 ほっぷくらぶ (毎週月曜日)
すてっぷくらぶ 1, 2 (毎週月、木曜日)

- ① この日がくるのを楽しみにしている。
- ② 子どもと触れ合ういい機会です。
- ③ お母さんがちょっと大変。託児所があればいいなあー。
- ④ 子どもとの触れ合う機会が少なく、この時にスキンシップがとれていいし、楽しい。
- ⑤ 月謝の割には内容が濃くて楽しい。牛乳まで出してもらって。
- ⑥ 体育館まで来るのがちょっと大変だが、やりはじめたら楽しくやっています。
- ⑦ 毎回楽しみにしています。子どもが毎週まだなのと聞き、行きたいと言っています。
- ⑧ ご飯を一杯食べるようになりました。
- ⑨ 毎回楽しみにしています。
- ⑩ 体操の日を気にしてて、まだなのとママに聞いてくる。
- ⑪ 普段やらせていなかったが、体操やりはじめて縄跳びを家で自分からやり始めるようになった。体操するのを楽しみにしている。
- ⑫ 体を動かす機会が出来て助かっている。3人兄弟で一番上と接する機会がなかったが、接するようになった。
- ⑬ 今日の体操の様子を帰り道にお母さんに、夕食時等にはお父さんに聞かせており、コミュニケーションが図れてたいへんよい。
- ⑭ 体育館に来ちゃえば楽しんでいるが、途中で公園などで遊びたい気持ちをこまかしひっぱってくるのが大変です。
- ⑮ 子どもがやりたいというさく、毎回楽しみにしている。親子ともども楽しんでいます。
- ⑯ 先生のいっていることを真剣にきいていて、はじめましようの一言でサッとやりはじめる態度にはビックリです。
- ⑰ この年頃のこどもさんて、こんなに体が柔らかいなんて、本当に驚きです。それに較べてお母さんはこれっぽっちですよ。
- ⑱ ボール投げ、ボールつき、日に日に上手になるのが目に見え驚き。みんなと一緒にやれば楽しみながらやるのがいいのかなあー。



「いろいろいる」が、社会のパワー

— 総合型地域スポーツクラブマネージャー養成講習会より —

広報部部長 齋藤 水子

今「総合型地域スポーツクラブ」の必要性が説かれ、現在日立市では、滑川地区と塙山地区が、そして全国各地で試行錯誤のクラブづくりが行われています。講習の目的は、クラブの運営に必要な事項をステップごとに学習し、その経営能力を有する人材を養成することにあります。

ところで、「総合型地域スポーツクラブ」の意味ってなんだろう？

まず、クラブが単なるスポーツ愛好者の集まりではなく、スポーツ環境の提供と、楽しみながら人間関係を広げる「まちづくり」の提案をすることにより、地域の生活環境を共有し、解決する糸口として位置づけ、地域の生活を豊かにする仕組みとして理解してもらう事にあります。設立後の運営は、会費収入だけに頼らず、時間や技術など住民の智慧と力を出し合って支えていくことで、連帯感が生まれていきます。

講義の中で、ある著書から引用されたフレーズが、印象に残りましたので紹介します。

『おとなはおとなだけで群れ、子どもは子どもだけでたむろし、老人は老人同士で集う。ひょっとすると仲間で群れることも面倒で一人で過ごす時間の方が長いのかもかもしれません。それがいまの日本の社会のありさです。_____けれど社会の成長エネルギーというものは、老若男女あらゆる人間が交じり合うことで初めて生まれるのです。異質なものが混在するから文化は成熟し、継承されます。類で群れ合って楽を求めている限り、社会に未来を切り拓くような力がみなぎることはありません。』

「総合型地域スポーツクラブ」のめざすものは、こんなところにヒントありってことかな
.....。

クラブはこんなことを目指しています

「住んで良かったというまち」を築いていきたい

会長 永山 堯康



地域の皆さんが気楽に、そして手軽に一緒になってスポーツを楽しみ、「健康で潤いのあるまち、滑川」を築いていくために、昨年4月に誕生しました滑川ファミリースポーツクラブが満1歳を迎えました。

この間、親子体操教室を始めとして、小学校の低学年を対象とした「複合スポーツ教室」や「テニス教室」、中高年を対象とした「かがやき健康教室」を毎週開催するとともに、「らぶりークッキングクラブ」や「キックベースボール大会」、「スキー教室」などのイベントを開催し、幼児からお年寄りまで、多くのみなさんにスポーツを通じた交流を楽しんでいただき、現在の会員は400名を超えております。

このようにクラブが順調に活動できましたのは、滑川地区にお住まいのみなさんのご理解とともに、日立市教育委員会や日立市体育協会、滑川学区コミュニティ推進会など関係機関のご支援、ご協力があったからであり、クラブを代表してお礼を申し上げます。

平成19年度は、さらに教室の数を増やすとともに内容の充実を図り、また地域のみなさんが集うことができる楽しいイベントを開催して、「毎日、笑顔に出会うことができ、笑い声を聞くことができるクラブ」づくりをさらに推進し、クラブの理念であります「住んで良かったというまち」を築いていきたいと思っております。ぜひ、クラブの活動にご参加ください。

『スポーツの本質とは？』

クラブコーディネーター 清水 透

日本では、スポーツという言葉を知ると、「健康」や「忍耐」、「勝負」などの言葉を連想しますが、語源と言われているラテン語の「デポルターレ」は、「気晴らし」や「遊び」という意味を持っています。また英語では、スポーツをする人のことを「プレーヤー」といいますが、プレー（遊ぶ）する人、まさしく「遊ぶ人」の意味であり、ドイツを始めとした欧米では、「自分の意思で楽しく遊ぶこと」がスポーツなのです。

そして、人は、スポーツ（遊び）の楽しさを知ることにより、「続けたい」と思うようになり、続けることで「うまくなりたい」と考え、上達が感じられると「勝ちたい」という意識が育ち、勝つという目的ができると「耐える」ことが可能になるのです。

スポーツを行う、または指導する場合には、このスポーツの意義そしてプロセスを認識することが大切なのです。

滑川ファミリースポーツクラブは、スポーツの本質を踏まえ、安い費用で参加できる各種の教室やイベントを通じて、会員に「気晴らし」や「遊び」の空間を提供し、継続してスポーツを楽しんでもらうことを目的としています。

現在クラブでは、体操教室やテニス教室、スキー教室そして親子料理教室や音楽鑑賞会などを開催していますが、今後はさらに、お年寄りの経験を孫に伝える「竹馬作り」やお父さんの「メタボ解消フットサル」、母と娘の「ヨガ教室」など、地域の皆さんの希望を踏まえた楽しい企画を考えていきます。

ぜひ、会員として、そしてスタッフとして滑川ファミリースポーツクラブの活動にご参加ください。

お母さんがかけてくれる励ましの言葉が一番！

— 指導者からのメッセージ —

クラブ役員・親子体操教室指導者 小田倉 洋子
親子体操教室指導者 富田 千恵子
親子体操教室指導者 岸田 みゆき



「ほっぷくらぶ」「すてっぷくらぶ」では、遊びや体操の中から、親子のスキンシップを深めて運動の楽しさを知ってもらう、という目的で毎週活動しています。

教室の活動内容は、年間を通して、フープやボール遊び、跳び箱、マット運動、なわとび等を行っています。また、9月と3月には運動会を開催しています。

入会した頃は、何もできないで泣いている子もいますが、何か一つできるようになると自信がつき、いろいろな事にチャレンジするようになります。できなくてもあきらめないで、何度も練習してできるようになろうとする姿は、とても感動的です。

このように、子ども達があきらめないでがんばる力を持てるのは、親子で一緒に参加しているお母さんが、子ども達に励ましの言葉やほめ言葉をかけているからです。親子で参加すると、技術の向上だけでなく、心や体の成長も感じることができます。

私たち指導者は、一人でも多くの方に「参加して楽しかった。良かった。」と言ってもらえるように努力していきたいと思います。



本号より、各種研修会・講演会等に参加して得られた情報をシリーズで掲載していきます。子育てのヒントあり、時にはクラブの運営管理の方法等の情報を交換し共有する場であつたりと、みなさんと共にクラブのステップアップに繋げていけたらと思います。☆今回は「ジュニアスポーツ指導員講習会」から、子育て中の方へのメッセージです。

ー 秘訣は「褒める」ことー

クラブ役員 佐藤 匡広

「ジュニアスポーツ指導員」とは、日本体育協会が平成18年度に新たに創設した資格であり、その目的・役割は「地域スポーツクラブ等において、幼・少年期子ども達に遊びを通した身体づくり、動きづくりの指導を行う」というものです。講習会で学んだ多くのものの中で、最も大事なことの一つが次のことです。

私たちが目にする指導者の多くは、誰にでも同じ方法で、かつ自分のやり方を押し付けてしまうような、自分の経験だけに基づいた指導を行っているのではないだろうか。子ども達の失敗を責めるような…。つまり、子ども達とうまくコミュニケーションが取れていないのです。

これらは、子ども達の失敗するチャンスを取り上げ、自発性や自立性を伸ばすチャンスを奪ってしまっているのです。この現状を、まず厳しく認識しなければなりません。高い自発性や自立性によって、子ども達は創造性・積極性・個性・多様性を発揮することができるようになります。そのために、子ども達の個人差を認め、立場を尊重するなど、子ども達を認めてあげる指導法(管理態度)が必要となるのです。

指導者は、常に子ども達の話に根気よく耳を傾け、気持ちに共感し、否定せずに最後まで聞くなど、コミュニケーションをうまくとるといったことが必要となります。子ども達は、自分を受け入れてもらっていると安心した時初めて心を開きます。指導者に対し、安心感や信頼をおいてもらえるようになることが何よりも重要となるのです。

そして、子ども達と向き合う時、話を聞く時、重要となってくるのがコーチングスキルです。その中で、何より大事な基本となるのは、ひとり一人の良いところだけを見つけて伸ばしてあげること。

ー 秘訣は「褒める」ことー

私は、2児の父親です。学んだことを利用しないのはもったいない。子どもたちが本当に楽しそうに私と遊んでくれる。コーチングスキルを駆使したおかげで、あっという間に自転車に乗れるようになり、逆上がりもすぐにできてしまいました。からだを動かすところから生まれた信頼関係は絶大です。家族だけでなく、息子の友達にも学んできたスキルを使った効果は大きかったと思います。

地域に、この輪をぜひとも広げたい。数年後には、きっと、多くの子どもたちの目が輝いている。

★★子どもの可能性を伸ばすコーチングスキルとは??

・次号にて具体的にお伝えします。★★



すべての子ども達が持つ、限らない可能性を 本人に気付かせてあげましょう！

～私たちには、その可能性に気づき、気付かせるためのお手伝いができます～

クラブ役員 佐藤 匡広

1

大好きになってもらおう！

●「やってみたい。もっとやりたい。」

スポーツに興味を持ったら、好きになったら、自然にこのように思うはずです。そこには、子ども達が自ら考える創造性や自発性などが生まれ、積極的な姿勢で取り組むようになります。だから、何をやっても上達が早くなるのです。

ところが、やらされていると「つまらない。やりたくない。」

こうなると、止めるのは時間の問題で、その子はそのスポーツから遠ざかってしまうでしょう。

やらされることは、勉強はもちろん、スポーツだって面白くなくなってしまいます。

「もっとこうすべきだ」「なんでこうしなかったんだ」なんて、言ってしまうってませんか？



2

子どもに信頼されよう！

●「この人には何を言っても大丈夫。なんでも受け入れてくれる。」

子ども達に、このように思ってもらえたら最高です。

そのために、「指導する」という立場ではなく、子どもに歩み寄り、自主性を尊重しながら『共に考える』ことがとても重要となります。自らしゃがんで子どもの目線に立つ。挨拶や何気ない声掛けをする。思い切ったプレイ・遊びに拍手をするなど、言葉以外にも、体全体を使って態度で示すことも大切なことです。

●「子ども達の話す、最後まで否定せずに全部聴こう」

自分の言いたいことを子どもに伝える(わかってもらう)ためには、まず先に、子どもが何を考えているかを把握しましょう。そのことで、指導者への安心感が生まれ、お互いの信頼関係が築かれていくのです。話を聞く時には、次のことに注意して話しやすい環境をつくってあげましょう。

・表情

ニコニコしながら、目線(視線)を合わせる、うなずく

・声

トーンを合わせる、声の大きさに強弱をつける、黙ってみる

・相づち

うんうん、そうそう、なるほど、そうなんだ

・感嘆

へえー、ほんとに、うそー

・接続

それで、もっと話して、それからどうなったの)

・繰り返す

何するの？⇒何しようー？

3

自信を持たせ、その気にさせよう！

●「ほめる」「話を聴く」「認めてあげる」「責任を持たせる」

どんなスポーツでも、遊びでも、自分で考え工夫することこそが面白い。子ども達が自ら創造し、工夫しながら、自分のプレイや遊びが進化することに楽しさがあるのです。指導者は、それらの環境を子ども達と一緒につくることこそが最大の役割であり、目的となるべきです。

●「好きこそものの上手なれ」

好きなら、どんなに失敗しても成功するまでがんばります。また、その先も自ら求めます。失敗しても「よくがんばったね」とほめてあげましょう。成功したら「すごい。よくできたね」とほめてあげましょう。





各種研修会・講演会等に参加して得られた情報をシリーズで掲載するコーナーです。子育てのヒントあり、時にはクラブの運営管理方法等の情報を交換し共有する場であつたりと、みなさんと共にクラブのステップアップに繋げていけたらと思います。



「今、ボールは誰だ?!」

クラブマネージャー 土田 宏

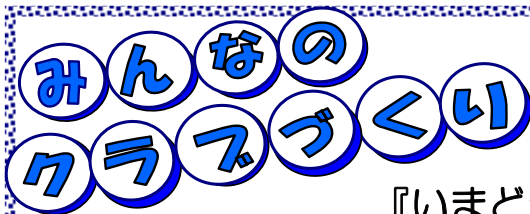
30年程前、私が30歳過ぎに聞いたあの言葉が、今も鮮烈に残っています。『今、ボールは誰だ?!』これがその言葉で、以降何かにつけ自分の行動のチェックポイントにしております。この言葉、王貞治さんの育ての親といわれている、ヤクルト元監督の荒川さんが、スポ少野球教室における挨拶の中で話したことなんです。

当時、私は滑川野球少年団の指導者をしており、市内のスポ少のチームがこの滑川市民グラウンドに集まり、野球教室が行われました。指導者は荒川さんを始め、あの怪童といわれた東映フライヤーズの尾崎投手、そして主催者側（スポンサー）の1名の3名という豪華な方々。

参加者は総勢300名位だったでしょうか。バックネット前にみんな集まり開会のセレモニーが始まりました。司会者の案内に促され、挨拶に立った荒川さん、開口一番「お前ら、野球なんかする資格はない! 帰れ!」って怒鳴ったんですね。ざわめいていた300名の子ども達（何十人かいた大人も共犯者?）は、次の瞬間シーンとなってしまいました。私は、一体何事が起こったのかと身が引き締まったのを覚えています。次の言葉が出て来るまでどれ位あったのでしょうか。

しばらく間をおいて「あんな、お前らな、もう野球は始まっているんだよ。野球はボールから目を離すと出来ないんだよ。今、ボールはどれだと思う?」 又しばらく間を設けて「今、ボールはな、この俺なんだよ。俺の顔を見れない奴は、野球なんかやる資格がないんだ。学校だってそうだよ。授業中に先生の顔を睨みつけて話を聞かなくっちゃ!」 話はこんな調子で終わりました。そういえば、ボールから目を離すんじゃないってよく言いますし、よく聞きます。これは野球に限ったことではなく、どんなスポーツであれ、はては、日常生活の中で相手がいてコミュニケーションを図っている時でも大事なことのひとつではないでしょうか。キャッチボールをしている時、相手のどこを見て投げるでしょうか。たまたま悪送球になって、草むらに転がり込んでいったボールを素早く見つけ拾って戻ると、いつまで経ってもボールが見つからない子。やっぱり、素早く見つけて来る子は、ボールが草むらに転がり込んで見えなくなるまで、ボールから目を離していないんですね。ですから、投げられた暴投を捕球出来なかった子に早く拾って来るよう、よく怒鳴っていたものです。暴投をした本人が、拾いに行く辛さを感じてくれることを願っています。

キャッチボールってコミュニケーションを図っているようなもの。上手くいけばこんなに楽しいことはありませんよ。



各種研修会・講演会等に参加して得られた情報をシリーズで掲載するコーナーです。子育てのヒントあり、時にはクラブの運営管理方法の情報を交換し共有する場であつたりと、みなさんと共にクラブのステップアップに繋げていけたらと思います。

『いまどきの子供たち』

クラブ事業部長 永盛 常雄

滑川ファミリースポーツクラブのキッズ教室は、準備期間中のプレ事業を含め、11月で約2年になります。現在、小学1年生から3年生まで52名の会員で活動しています。

毎月種目を変えて行う、スポーツやレクリエーションなどを通じ、子供たちの体力増進及び運動機能の向上を狙いとして活動しています。

日立市の小学生の総合体力は県平均を下回っています。子供たちの生活環境が、アウトドアからインドアに変わった影響が大きいと思います。少しでも身体を動かし、人間本来の運動機能を身につける必要があるのではないのでしょうか。ある男の子が器具が重くて動かせないといいました。ところ

が、それを見ていた女の子が簡単に動かしました。

おかしいと思いませんか? 双方の体つきを見れば一目瞭然です。男の子の筋力が発達していないのです。重いから動かさない、動かさないから筋力が付かない。日常生活では、重いものは親が動かす、自分の体重も支えられない、これが現状です。

たとえば、集団でひとつのスポーツをする時「できないからつまらない、つまらないからやらない」といった場合、どのような対処をしていますか? 親が手助けをしたり、あるいはお子さんの妥協を許していませんか? そんな時、最後までやらせる、ヒントを与え考えさせるなど、お子さんの自主性を引き出してください。時間はかかりますが辛抱強く待ってください。

クラブでは、お子さんの考えなどを汲み取りながら、キッズ教室を運営しています。家庭においては、各教室のできごとについてお子さんと話し合っ、話題づくりにも活かしてください。

★★ きっと、良いコミュニケーションが取れると思いますよ。★★

[クラブ役員]

氏 名	クラブでの役職	所 属 先
永山 堯康	会長	日立市体育指導委員
澤井 昭一	副会長兼総務部会	滑川学区コミュニティ推進会健康部
根矢 芳信	副会長兼総務部会部会長	滑川学区コミュニティ推進会青少年育成部
土田 宏	マネージャー	滑川学区コミュニティ推進会企画委員会
清水 透	コーディネーター	スポーツシュレを考える会
木村 統	総務部会	滑川学区子ども会育成連合会
田中 宣子	総務部会	滑川学区コミュニティ推進会事務局
石井 啓子	財政部会部会長	日立市体育指導委員
佐藤 匡広	財政部会兼事業部会	スポーツシュレを考える会
永盛 常雄	事業部会部会長	滑川サッカースポーツ少年団
沼田 勝寛	事業部会	滑川学区子ども会育成連合会
石井 照夫	事業部会	滑川地区体育振興会
遠藤 一男	事業部会	滑川学区コミュニティ推進会企画委員会
山田 利直	事業部会	日立市体育指導委員
小田倉 洋子	事業部会	日立市体育指導委員
望月 京子	事業部会	食育研究家
齋藤 水子	広報部会部会長	滑川地区体育振興会
稲沢 美代子	広報部会	スポーツシュレを考える会
根本 美江	広報部会	小学校図書管理士
舘川 好	施設部会部会長	滑川学区コミュニティ推進会事務局
佐伯 幸一	施設部会	元滑川学区子ども会育成連合会
竹澤 達雄	顧問(旧設立準備委員会委員長)	滑川地区体育振興会
梅澤 克実	アドバイザー	(財)日立市体育協会
小室 誠	アドバイザー	日立市教育委員会
星 秀男	監事	滑川中学校
今橋 道拓	監事	滑川小学校
坂本 めぐみ	事務局スタッフ	
小祝 庸子	事務局スタッフ	

[旧 設立準備委員会委員]

遠藤 進	旧設立準備委員会顧問	滑川学区コミュニティ推進会
関 等之	旧設立準備委員会委員	元滑川小学校
小林 相	旧設立準備委員会委員	前滑川小学校
鈴木 俊雄	旧設立準備委員会委員	元滑川中学校
天下井 一雄	旧設立準備委員会委員	前滑川中学校
川上 哲男	旧設立準備委員会委員	滑川学区コミュニティ推進会企画委員会
湯田 健一	旧設立準備委員会委員	スポーツシュレを考える会
根本 道弘	旧設立準備委員会委員	滑川まちづくり市民の会(現滑川学区コミュニティ推進会)
佐藤 貞則	旧設立準備委員会委員	滑川まちづくり市民の会(現滑川学区コミュニティ推進会)
鈴木 出	旧設立準備委員会アドバイザー	前日立市教育委員会
小林 登	旧設立準備委員会監事	元滑川中学校
酒井 純	旧設立準備委員会監事	前滑川中学校
森山 穂積	旧設立準備委員会監事	前滑川小学校

滑川ファミリースポーツクラブ 設立のポイント

2008年4月21日発行（初版）

発 行 滑川ファミリースポーツクラブ
（総合型地域スポーツクラブ）

〒317-0051

日立市滑川本町1-21-1（滑川交流センター内）

TEL&FAX 050-8012-4788

ホームページ

<http://www.namekawaclub.jp>